備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成元年度	根拠法令・例規等	下水道法
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）	下水道課
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり	職・氏名	工務係長　小川勝巳
	小項目	施策	10 下水道	電話	(0869)66-9702
事務事業名			03 雨水施設整備事業	このシート作成に要した時間	2.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	吉永排水区内の現認可区域内（９２．５ha）全ての住民・家屋等。
目的（何のために）	梅雨・台風等の集中豪雨による浸水被害を解消する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	年次的な計画により整備面積を拡張する。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
管渠整備事業	浸水対策のため、認可区域内の雨水管渠を計画に基づき順次整備する。	◎
水道管外移設補償事業	H22年度は、水道管等が支障となる箇所がなかった。	

事業費等		単位	平成20年度実績		平成21年度実績		平成22年度実績	
事業費	直接事業費	千円		575,346		131,357		9,127
	必要人員　人件費	千円	1.62人	10,768	0.41人	3,177	0.13人	1,001
	事業費計	千円		586,114		134,534		10,128
決算額 財源	国県支出金	千円		277,650		57,600		
	受益者負担	千円				3,590		
	繰入金	千円						
	市債	千円		297,100		71,300		8,300
	その他（　　）	千円						
	一般財源	千円		11,364		2,044		1,828
受益者負担比率		%		－		2.7%		－

結果指標名	単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
主要管渠延長	説明	当該年度に整備した主要雨水渠の延長		
結果指標量	m	483	142	39
対前年比	%	－	29.4%	27.5%
活動コスト	円	90,744,063	134,534,000	5,298,300
単位当たりコスト	円	187,876	947,423	135,854

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
整備率	目標値（A）	89	90	92	94
	実績値（B）	88.6	89.7	92.2	到達目標値
	達成率（B/A）	99.55%	99.67%	100.22%	平成27年度

成果指標設定の考え方・式や説明

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- 必要性
  - ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
  - ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
  - ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- 市民ニーズ
  - ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**B**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☐ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**B**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☑ 成果指標の設定は適切である
  - ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- 市民参画度
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
  - ☐ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

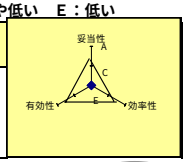
説明：整備の効率化及びコスト縮減を図りながら、早期完了を目指す。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

雨水渠の整備は災害を未然に防ぐにあたり非常に有効である。浸水等災害の発生する可能性が高い箇所から順次整備する必要がある。

評価区分 <A～E>：**B**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：引き続き整備の効率化及びコスト縮減を図りながら早期完了を目指す。